

「織 紙」

倉橋 歴史は斯うです。フレイベルの製作の論理主義から来たもので、他の製作中には「weaving」の要素がない、これを何とかやらうとして一番簡単なものを考へて縦横を組合せて「weaving」としたのです。縦と横と組合せて平面を作ることは人類が昔からやつて居ります。これは實體性の物です。實體的平面製作は幼稚園であつてもいゝですね。摺紙ほど攻撃せずともね、あれ程藝賞ではないから。普通の平織だけならいゝが模様出しは六つかしいでせうね。美麗式としてやつて来たんですね。

及川 昔は細かいものでしたわね。四十本、五十本も
新庄 面白がりますか。

堀 面白がるのは女の子ですね。けれども自分で考へて織り出すことは出来ません。

堀 ロンドンのインフアントスクールでは草の乾いたのでやつてゐました。

倉橋 先日の談話會に話された藤の蔓であんだもの

あれは立派な「weaving-work」だ。

堀 子供の時に蘭草の長いのでこぼろぎの籠など作つた。

新庄 笹の葉なら龜の子など編みますけど

堀 毎週一回する程の物でもないね。

倉橋 私はむしろ、女の子なら機械でも使はせてやつたら「weaving」の満足は十分に味はれると思ふ。

堀 コロンビヤ大學で木工で枠を作つてゐた。

倉橋 縦横、通してゐる中に、製作の本義ではないが人間の慾求としてきれいな模様が出る様にと考へて来る。

堀 日本の、きれいな模様にし過ぎてゐる。

倉橋 さうね、「weaving」を越して美麗式になつてゐる。フレイベルは「weaving」から始めたのだから。

堀 美麗式は程度が高い。殊に遠近が出るようになると思ふ。

新庄 此處では七行九行までですね。